

医学部医学科・医学研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準 4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	○アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜するために、平成 26 年度入学者選抜から前・後期日程で 2 段階選抜、面接試験を取り入れており、推薦入試、私費外国人入試を含めすべての入学者選抜において面接試験を実施している【資料 1】。また、地域医療に貢献することを目的に、平成 27 年度入試から地域枠推薦入試の入学定員を 3 名増員し 28 名としている。 ○将来を担う人材を幅広く確保するため、平成 27 年度大学院入試から学力試験科目（外国語（英語））において、TOEIC のスコア又は TOEFL のスコアを提出することにより、外国語（英語）試験に換算できるように試験方法を増やした。【資料 2】（大学院課程） ○平成 28 年度にアドミッション・ポリシーを改定した。【資料 3-1】【資料 3-2】（学士課程・大学院課程） ○医学部医学科の入学者数は、平成 27・28・29 年度は入学定員の 1.00 倍となっており、適正である。 ○医科学専攻、再生医科学専攻（博士前期・博士後期）を合わせた定員充足率については、平成 29 年度は 70.3%であった。【資料 4】 【新たな取り組み等】 ○一般入試の募集人員を後期日程にシフトしてから 11 年が経過し、また平成 29 年度で地域枠暫定定員増（15 名）が終了することから、各入試区分の募集人員について、医学教育 IR 室の分析結果を基に見直しを検討していたが、暫定定員（15 名）が 2 年間延長（平成 31 年度）される見込みとなったため、各入試区分の募集人員見直しについては引き続き検討することとした。【資料 5】	平成 29 年度入学者選抜に関する要項（抜粋） 【資料 1】 大学院募集要項（TOEIC、TOEFL 部分抜粋）【資料 2】 アドミッション・ポリシー【資料 3-1】【資料 3-2】 選抜概況（大学院）医学系研究科 H29【資料 4】 医学部入学定員の暫定措置の延長に関する意向調査回答【資料 5】	医学部医学科の取り組みを示すポンチ絵（公表用 1 枚）
基準 5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	○初年次教育では、「医学英語」における TOEFL の成績利用、「初期体験実習」「地域体験実習」における事前・事後指導とレポートやプレゼンテーション、e-ポートフォリオを活用している。 ○PBL テュートリアル教育とクリニカル・クラークシップ（参加型臨床実習）を教育方法の根幹に据え、能動的に自ら学ぶ姿勢を身に着け、判断力・分析力・問題解決力等の真の実践力を身に付けられるカリキュラムとしている。 ○平成 26 年度から博士課程の学生に対する英語教育で基礎から臨床まで、幅広く最新の医学研究に触れることを目的に、大学院講義「ADAMS」を開講し、より多くの関係者（大学院学生、将来大学院進学を希望する学部学生、MD-PHD コース等）も受講することができるように整備している。【資料 6】（大学院課程）	医学部医学科授業案内（上・下） H28 年度 ADAMS シラバス【資料 6】	

	【新たな取り組み等】 ○：平成 28 年度から臨床実習ポートフォリオの正式運用を開始した。ポートフォリオでは、獲得すべき臨床能力に対する学生の自己評価・患者経験・臨床スキルの経験・ふりかえり・指導医評価（診察能力、実技など）・出席状況などを設け、指導医からのフィードバック記載を要請した。学生の記載内容はパイロット期間（H26～H27）に比して格段に充実し、ふりかえりでは行動科学・社会医学・臨床倫理的な記載もみられ、教員のフィードバック内容も向上している。総括評価としてのポートフォリオの位置づけは現在検討中である。【資料 7】。	臨床実習ポートフォリオ記載例（2 名分）【資料 7】	
基準 6 学習成果 6－1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6－2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	○5 年次から 6 年次への進級を除く、すべての学年の年度末に進級判定を行っている。加えて、臨床実習前には共用試験（CBT、OSCE：客観的臨床能力試験）、学内臨床実習後には Advanced OSCE、さらに選択臨床実習後には卒業試験をそれぞれ課し、学習成果を繰り返し確認している【資料 8】。 ○平成 26 年度から大学院教育の国際化を目指した英語による講義、英語による学会発表、議論に習熟させることを目的とする大学院講義「Advanced English Seminar」を開講し、平成 28 年度の受講者は 10 名であった。【資料 9】（大学院課程） 【新たな取り組み等】 ○平成 28 年度医師国家試験の新卒合格率は 88.2%と全国平均を下回る低調な結果で、合格率を向上させる取り組みが喫緊の課題となったため、教務厚生委員会内に国家試験対策作業部会を立ち上げ、卒業試験の見直しを中心に対策を検討することとなった。	平成 28 年度 Advanced OSCE について・フィードバックシート【資料 8】 H28 年度 Advanced English Seminar シラバス【資料 9】	
基準 8 教育の内部質保証システム 8－1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8－2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	○チューター初心者 FD、学生によるテュートリアル・コース評価と担当教員へのフィードバックを継続して実施した【資料 10】。 ○附属病院医師育成推進センターと連携した臨床実習指導医 FD と、附属病院医師に加え実習協力病院医師も対象とした FD を継続して実施した。 【新たな取り組み等】 ○国際基準に対応した医学教育分野別評価（トライアル）を平成 27 年度に受審した。外部評価報告書の「改善のための助言・示唆」を受けて、改善事項に対する取り組みを行い、改善報告書を作成するべく準備を進めた。 ○平成 28 年度から医学教育 IR 室の設置準備を進め、IR 担当教員を構成員とした医学教育 IR 室を平成 28 年 12 月に正式に設置した。本 IR 室では共用試験、Advanced OSCE、臨床実習評価、卒業試験、CBT と各分野筆記試験の関係、卒業後の進路と背景、学業不審者などを分析中であり、今後、教育内容に適合した評価法の開発につなげたい。【資料 11】	学生によるコース及びチューター評価用紙集計【資料 10】 医学教育 IR 室細則【資料 11】	

医学部医学科の取組み(認証評価対応自己点検評価書)

2016年度
(平成28年度)

【学生の受入】

入学者選抜の改善

《平成27年度まで》

- 前・後期日程の2段階選抜・面接試験実施
(H26年度入試方法を継続)
- 地域枠推薦入学定員増員
(H27年度入試 25⇒28)

○評価できること

- ・すべての選抜区分で面接試験を実施
- ・適正な入学者数
H27・28・29年度:1.00倍
- ・地域医療への貢献

△検討事項

- ・各選抜区分募集人員の見直し

《平成28年度》

- 各入試区分の募集人員について、医学教育IR室の分析結果を基に見直しを検討
- 暫定定員(15名)が2年間延長(平成31年度)される見込み

今後の検討事項

引き続き、各選抜区分募集人員の見直し

【教育内容及び方法】

単位の実質化

《平成27年度まで》

- PBLチュートリアルとクリニカル・クラークシップ(参加型臨床実習)
- 初年次教育におけるTOEFLの活用
- 初期実習における事前・事後教育とe-ポートフォリオの活用

○評価できること

- ・知識・技能の修得にとどまらない自ら学ぶ姿勢の教育
- ・臨床実習の充実

△検討事項

- ・H28.11開始の臨床実習でのポートフォリオ運用方針策定

《平成28年度》

- 臨床実習ポートフォリオの正式運用開始
- ・学生の記載内容の充実
- ・教員のフィードバック内容の向上

今後の検討事項

総括評価としてのポートフォリオの位置づけ

【学習成果】

学習成果の向上

《平成27年度まで》

- 5→6年次を除くすべての学年で進級判定
- 臨床実習前(4年次)に全国共通のCBT(知識)、OSCE(実技)試験
- 4～5年次1年間の学内臨床実習後の臨床能力を量るAdvanced OSCEの実施
- 21科目を課す総括試験の実施

○評価できること

- ・各年次における学習成果の確認
- ・学内の基準によらず、全国共通の基準で能力を測る
- ・新たな臨床能力試験の導入とフィードバック

×改善すべきこと

- ・医師国家試験結果の改善

《平成28年度》

- 教務厚生委員会内に国家試験対策作業部会を立ち上げ、卒業試験の見直しを中心に対策の検討開始。

今後の検討事項

- ・医師国家試験対策

【教育の内部質保証システム】

教育の質の改善

《平成27年度まで》

- 学生が各チュートリアルコースを評価し、その結果をコース担当教員へフィードバック
- テacher経験の浅い教員に対するFD
- 附属病院だけでなく、実習協力病院も対象とした指導医に対する臨床実習FD

○評価できること

- ・充実したFD内容

△検討事項

- ・学生によるチュートリアル評価結果の公表

《平成28年度》

- 医学教育分野別評価(トライアル)受審後の、外部評価報告書における「改善のための助言・示唆」に対する改善の取り組み。
- 医学教育IR室の設置